

デマンド交通に関する住民説明会 議事録

○日 時：平成22年2月27日（土）10：00～11：45

○場 所：一宮町中央公民館 大会議室

○議事次第：

1. 開会
2. 一宮町地位公共交通活性化協議会会長〔一宮町長〕挨拶
3. 説明
 - ・一宮町地域公共交通総合連携計画（案）について
 - ・デマンド交通の試験運行について
 - ・今後のスケジュールについて
4. 質疑 応答
5. 閉会

○議事概要

- ・トーニチコンサルタントより、資料説明
質疑応答の内容は、以下の通り。

(住民A)

- ・パブリックコメントとは何か。

(事務局)

- ・計画書を町のHP、あるいはまちづくり推進課で閲覧できる旨を、広報あるいはHPでお知らせし、皆様から計画書に関するご意見を伺うことになっている。パブリックコメントは、住民の皆様に広く知ってもらうこと、ご意見を皆様から伺うことが目的である。
- ・頂いたご意見をもとに、再度協議会において協議し、最終的に連携計画を策定することとなっている。

(住民A)

- ・高齢者にとっては、横文字は理解しにくい。HP閲覧も難しい。

(事務局)

- ・HP閲覧の他に、役場まちづくり推進課のカウンターで閲覧できる。

(住民B)

- ・基本構想における公共交通の記述では、バスは高齢者や子供などの交通弱者にとって欠かすことのできない交通機関である、とされている。しかしながら、今回の計画では高齢者が全面に出されており、基本構想の趣旨を生かすのであれば、高齢者等ではなく交通弱者と記述すべきではないか。尚、パブリックコメントでは、生活弱者としたが、交通弱者が適切であった。
- ・将来像の絵の中に中学校を加えていただきたい。さらに、中学校付近の現在整備中の道路が国道につながることで、中学校へのアクセスがよくなることから、早く整備を進めていただき、整備後の交通網に関する検討も行っていただきたい。
- ・地元業者としてJRにも協力を仰ぐことはできないのか。JRにとってもメリットは大きい

と考えられる。

- ・観光について、イベント等で大勢の観光客が海岸へ訪れる際の対応は考えているか。
- ・住民の知人が来訪した場合、その知人はデマンド交通を利用することができるのか。
- ・パブリックコメントの募集がわかりにくい。日が経つと、HPの更新履歴にあるパブリックコメント募集が消えてしまっている。前の更新履歴を残すことや、HPのTOPに掲載するなどしていただきたい。

(事務局)

- ・現在ある基本構想は、平成4年に作成されたものである。その基本構想には、公共交通に際し、主に路線バスについて書かれ、今回の公共交通実施にはふれていない。それは基本構想策定の平成4年から社会情勢が大きく変化し、公共交通についても大きく変化している。平成19年には地域公共交通の活性化・再生に関する法律も施行され、その法律の実現のため、国で公共交通に対する補助事業が実施されている。一宮町ではこの事業を今回取り入れ、実施している。この公共交通に関しては、現在策定する総合計画において位置づけていくことを考えている。
- ・南総一宮線に関しては、H6年から県に整備を進めて頂いていますが、用地買収がまだ途中のため、国補助事業を受けられず、県単費で行なっており、その県予算も厳しく道路整備費用の確保が十分でないことから、少しずつの整備となっている。
- ・JRの協力については、現在上総一ノ宮駅のエレベーター設置についてJRと協議中であり、この際に一宮町の公共交通についても協議していきたい。
- ・協議会において緊急に行うべき対策は高齢者の外出支援となったことから、イベント時や通学の対応は、今後、協議会あるいは町の公共交通に関する課題としている。なお、特別な移動の場合は、急遽運行する場合がある。
- ・デマンド交通の利用者に関しては、町民の税金を利用して運行することになるため、基本的には町在住者が対象と考えている。今後協議会において具体的に検討するが、例えば利用前に回数券を購入してもらい、その回数券で利用していただく方法等を考えているが、利用する際、住民の知人に回数券を1枚上げて一緒に乗ることはやぶさかでない。
- ・パブリックコメントについては、町のHP関係で今後検討していく。

(住民C)

- ・私はにこにこサービスの運転手を行なっている。デマンド交通は、にこにこサービスを拡充、例えば車両を増車することで足りるのではないか。自宅の玄関から目的地まで高齢者を送迎することは可能である。
- ・利用者の自宅玄関まで進入できるよう、車両はあえて小さい車両を使用している。
- ・運行にあたっては、運転手は町の人を雇用するなど、雇用の創出にもつなげてはどうか。
- ・高齢者にとっては料金負担が重い。無料にしてはどうか。

(事務局)

- ・にこにこサービスは、高齢者や身体が不自由な方でクルマを利用できない方を対象に、無料で月4回の利用で3日前までの予約が必要となっている。現段階では、にこにこサービスはデマンド交通に切り替えることを考えている。
- ・にこにこサービス利用者から、多少なりとも料金を徴収してもらわなければ利用しづらいという声もある。又利用者の目的、回数の制限もなくなることから、利用回数は増えるこ

とが考えられる。使う人がいれば使わない人がいるとなると、受益者負担の原則にそって料金を徴収すべきと考える。又、一宮町にあるタクシー会社、バス事業者との共存も考えなければならない。料金はタクシーの初乗り料金が710円であり、その半分程度の金額が妥当であろうとの見解がある。一宮町では200円～300円の料金を徴収することを現段階では考えている。

- ・頂いた意見に関しては、今後協議会においても検討させて頂く。

(住民C)

- ・にこにこサービスでも車両を2台使用しているが限界であり、デマンド交通の運行において、車両は2台で足りるのか。

(事務局)

- ・にこにこサービスは、現在1台で運行しており、1日あたりの利用が3名弱、H19年度の月当たりの平均利用者数が50名程度となっている。
- ・他町村の事例から、本町の人口規模であれば車両台数は2台で足りると判断した。ただし、利用者が多く2台で足りないようであれば、車両を増車することも考えられる。
- ・車両については、町が保有する車両を利用することを考えている。

(住民D)

- ・先進事例をみると、結果としてうまくいった箇所と、うまくいかなかった箇所があり、うまくいかなかった箇所では需要予測の失敗が原因といえる。策定にあたってはどのような需要予測を行ったのか、説明いただきたい。
- ・料金について、片道200～300円とすると、往復400円～600円となり、はたしてこの料金設定が適切なのか、また、ベイシアやせんだうに訪れる方は、ほとんどクルマ利用であるが、この料金設定でクルマからデマンド交通に転換するのか疑問である。
- ・また、通学交通手段は、往復利用してもらうことを想定しているのか。

(事務局)

- ・通学の交通手段については、今後の課題としている。

(住民D)

- ・通学手段は主に自転車であり、このような通学交通手段を確保するとすると、各家庭での負担が大きすぎると想定され、現実的に不可能ではないかを感じる。
- ・加えて、一宮荘が閉鎖に追い込まれるなど観光客数が減少する中で、現状と観光ネットワークの形成に矛盾を感じるが、いかがか。

(事務局)

- ・中学生は自転車で通学しており、公共交通が必要なのは、遠い所から通っている小学生から一部要望がある。冬の帰宅時の暗い道、雨の帰宅時等、防犯上危険な状況や負担を感じている世帯があり、通学交通手段の確保を基本方針に取り上げた。しかし、一宮町の場合、居住者が町内全域に点在しており、学校の終業時刻にもばらつきがあることから、デマンド交通による対応は難しく、通学交通手段を確保する場合は、巡回バスやスクールバスでの対応が望ましいと考えている。今後の検討課題となる。
- ・観光ネットワークの形成については、町が行うとなると無理があるが、NPOで行ってみてはという声も上がっていることから、そういう仕組みを作るなどし、例えば、レンタサイ

クルや自転車タクシーの導入も含めて、今後の検討課題としたい。

(トーチコンサルタント)

- ・買物と通院の需要予測に関しては、昨年9月頃に行ったアンケート調査の結果より、買物や通院でクルマが利用できない人数は、およそ300人となっていた。その内の1割程度がデマンド交通を利用すると見込んでいる。
- ・そのため、必ず赤字になると予想はしているが、ここでは、デマンド交通で収益をあげて独立採算で運行するのではなく、町が運行補助をして運行することを前提としている。
- ・よって、デマンド交通を運行する、しないは、町の皆さんの判断になると考えている。デマンド交通が必要と判断されれば、運行経費削減の努力は必要であるが、ある程度の赤字でも継続していくことになる。ただし、赤字の額が大きいということであれば、取りやめると判断も当然あり得る。
- ・ただし、どれくらいの赤字額をもって成功か失敗かの判断は、自治体の判断に依るということが、弊社の経験からいえる。ある町では、1人を輸送するのに3~4千円もかけて運行しているが、町の方針として、これがなければ町はやっていけないというコンセンサスが取れているため、継続している自治体がある。一方で、1人あたり1千円の自治体でも、あまりにも負担額が大きいため止めた事例もある。
- ・そのため、一概に成功か失敗かを判断することはできないため、今後運行を開始してからも、町の皆さんと話し合いながら判断していくことになると考えている。

(玉川会長)

- ・一宮荘は老朽化してきたため閉鎖することになり、観光客の減少が閉鎖の原因ではない。そのため、観光客のニーズは決して小さくなっているとは考えていない。
- ・各町村によって赤字額はばらついており、地域におかれている高齢化の状況や交通事情によって各町村が判断しているといえる。
- ・デマンド交通は、道路や橋、水道といった社会的なインフラ整備の一環として運行していきたいと考えている。選挙活動中、多くの方から意見を伺ったが、一宮町が好きで移り住んできたが、年をとると外出する手段が無くなり、どうしても一宮町に住むことができず、一宮町を去る人が多いということがわかった。これからも、この様な方々が増加することが予想されることから、町の財政状況をみながら、公共的な足を確保していく必要があると判断し、その答えの1つとして、デマンド交通を提案させていただいた。

(住民E)

- ・高齢者の中には乗降に時間を要する方がいるが、デマンド交通はどのような車両を見込んでいるのか。芝山町の車両は、ノンステップの車両か。
- ・また、全国的に安心、安全が叫ばれている中で、乗降の際の危険(事故)について、何か手当てがあるのか。

(事務局)

- ・これまで、国の補助事業で車両購入もできたが、この前の事業仕訳でも、車両購入は廃止という声が出ています。ノンステップやエコを配慮した車両を考えていたが、今回は、国民宿舎の送迎車両やにこにこサービスの車両など、町が保有する車両を利用したいと考えている。
- ・芝山町の車両は、ノンステップバスではなくリフト付きの車両となっている。

- ・事故の手当については、デマンド交通の運行の際は、タクシー会社やバス会社といったプロの方に任せることで安全を確保できるのではと考えているが、委託額とのバランスをみながら、今後さらに検討を進めていく予定である。
- ・事故については、保険で対応していくことになる。

(馬淵副会長)

- ・乗降時の問題については、酒々井町の事例を念頭に検討することを考えている。酒々井町は、通常バスであるが、踏み台のようなものを設置し、運転手の方が乗降の際に介助をしている。

(住民E)

- ・運転手のほかに、乗降時に介助する方を乗せるなどの対応は考えているか。

(事務局)

- ・残念ながら、介助する方を添乗させることは考えていない。

(住民F)

- ・デマンド交通の場合、身体者割引等は考えているのか。
- ・運行時間帯が朝7時から16時となっているが、学校は部活等もあり夕方5時、6時になる場合があるが、運行時間を延長する考えはあるのか。

(事務局)

- ・提示した料金を徴収する予定である。にこにこサービス利用者から、多少なりとも料金を徴収してほしいという声もあり、利用者の目的、回数の制限もなくなることから、利用回数は増えることが考えられる。こういったことを踏まえて、料金を徴収することを考えている。
- ・子供達の対応を考える際は、帰宅時間にばらつきがあること、居住者が町全体に点在していることなどから、デマンド交通とは別に、今後の検討課題としたい。

(住民G)

- ・デマンド交通に期待をしており、成功させて頂きたい。
- ・正直ににこにこサービスは全然知らなかった。成功させるためには、住民にこういう交通手段があるということを周知させることが必要といえるが、足の悪い方やクルマが運転できない方は今回の住民説明会に参加していない可能性があり、住民の意識を高めるためにも、本日の説明会を一箇所のみで行うのではなく、機会があれば地域毎で説明をして頂きたい。

(事務局)

- ・にこにこサービスは、民生委員を通じて申し込む制度であったので民生委員が間に入り登録した。そのため一般の人にはわかりづらいことがあった。
- ・デマンド交通は誰もが利用できる交通手段であることから、周知は広報等を通じ行っていくが、皆様方からも近所の方にお声掛けいただければ幸いである。又広報はできるだけ見られるようお願いしたい。
- ・要請があれば、随時説明を行なっていきたい。

(住民H)

- ・デマンド交通の利用対象者は、全住民と高齢者のどちらなのか。

(事務局)

- ・デマンド交通は、誰でも利用することができる。アンケート調査結果より、高齢者の交通手段の確保が課題となったことから、高齢者を強調しているが、誰でも利用できる。

(住民H)

- ・デマンド交通は電話予約が必要とのことであり、名刺程度の電話番号が書かれたカードを配布してはどうか。

(事務局)

- ・運行時期が近づき次第、再度詳細を広報や説明会を通じて説明する予定である。

(住民I)

- ・ベトナムまで運行するのか、しないのか。
- ・住民に喜んで利用してもらい、多くの方が利用してもらうためにも、料金は1コインにしていきたい。

(事務局)

- ・ベトナムは他町村であるため、別途他町村との協議も必要であり、今回は運行できない。
- ・料金については、路線バスやタクシーの料金との兼ね合いを考慮し、この料金に設定した。

(住民J)

- ・にこにこサービスの状況からすると、出発の時刻は予め決まっているが、帰宅の時刻となると、利用者は決めづらいのではないか。
- ・料金について、誰もが一律の料金を支払うのではなく、個人の事由に合わせた料金設定をしてはどうか。

(事務局)

- ・にこにこサービスは、1人を実際送迎しているが、デマンド交通の場合は、乗合であり、帰りの時刻も利用者が予め決めていただくことになるため、にこにこサービスと比べ、利便性は下がることになるが、全住民が利用できるようになる。
- ・料金については、協議会で検討していきたい。

(馬淵副会長)

- ・帰宅時に不便ということであるが、今後導入するデマンド交通に関しては、システムによって事前の予約方法が異なってくる。現在にこにこサービスは、利用日の3日前の予約となっているが、例えば、酒々井町の場合は30分前までの予約となっており、本町でどのシステムを導入するかは未定であるが、可能な限り利便性がよく、価格が安いシステムを導入していきたいと考えている。

(住民J)

- ・予約制とすると、利用者だけでなく運転手にも負担が大きいため、巡回バスにしてはどうか。

(事務局)

- ・巡回バスとすると、時間通りに来ることになるが、居住地が点在する本町では、停留場の場所やルート設定が難しいため、デマンド交通とした。

(住民K)

- ・運行時間については、なるべく厳しい条件設定での試験運行が望ましいため、運行時間を延長していただきたい。
- ・料金は、受益者負担を原則としていただきたい。

(事務局)

- ・運行時間については、今後協議会において検討していく。
- ・料金は、検討します。

(住民L)

- ・デマンド交通が運行され、にこにこサービスが廃止された場合、にこにこサービスの利用者は無料から有料になるが、どのようにお考えか。

(事務局)

- ・現段階では、料金を徴収することとしているが、再度協議会において検討を行っていく。

(住民M)

- ・9区と10区は高齢化率がとても高く、高齢者の中には説明を聞きたくてもこの場所に来られない方がいらっしゃるため、本当に利用したいと思っている方々の意見をお聞きすることができないのではないかと。社会福祉協議会の方から意見を伺ってはどうか。

(事務局)

- ・社会福祉協議会会長が協議会委員であるため、今後もこれに関して十分に協議させていただく。

(住民N)

- ・料金の200円と300円の違いは何か。

(事務局)

- ・先進事例をみると、タクシー初乗り料金の半額程度がデマンド交通の料金となっていることから、現在のタクシー初乗り料金が710円であるため、200円～300円という料金設定とした。

(住民O)

- ・介助のための交通と、全住民のアクセス向上のための交通が混同しているのではないかと。デマンド交通を導入した場合、介助を犠牲にしてしまうのではないかと懸念がある。
- ・これに関しては、徹底的に先進事例を参考にし、にこにこサービスを廃止とする根拠を今後示していただきたい。

(事務局)

- ・今の質問に関しては、宿題とさせていただきます。(玉川会長)
- ・料金の問題や、にこにこサービスとの関係、その他懸念事項に対して、再度検討してまいります。
- ・町として、巡回バスとデマンド交通という選択肢がある中で、今回はデマンド交通を試験運行する方針を示させて頂いた。